

津山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	総合理工総論Ⅳ	
科目基礎情報							
科目番号		0043		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		総合理工学科(電気電子システム系)		対象学年	3		
開設期		集中		週時間数			
教科書/教材							
担当教員		山口 大造,中村 直人					
到達目標							
学習目的：ものづくり現場においては機械および電気・電子製図の素養が必須であり，そのツールとして広く利用されている3次元C A Dの基本操作を学ぶことで，物体の形状把握や表現法を習得する。							
到達目標： 1．C A Dシステムの役割と構成を説明できる。 2．C A Dシステムの基本能力を理解し，利用できる。 3．図面の役割と種類を理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	到達レベルの目安(可)	到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	C A Dシステムの役割と構成を説明できる。	C A Dシステムの概要を説明できる。	C A Dシステムの役割を説明できる。	左記に達していない。			
評価項目2	C A Dシステムの基本機能を理解し，利用できる。	C A Dシステムの基本機能を理解している。	C A Dシステムの最低限の機能を理解している。	左記に達していない。			
評価項目3	図面の役割と種類を理解できる。	図面の役割を理解している。	三角法を理解している。	左記に達していない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般・専門の別：専門 学習の分野：材料・設計と生産 基礎となる学問分野：工学/機械工学/設計工学・機械機能要素 学習教育目標との関連：本科目は総合理工学科の学習教育目標「④ 分野横断的な融合力の育成」に相当する科目である。 授業の概要：機械，電気電子，電子制御，情報工学科から総合理工学科へ転学科する学生が，転学科後の専門科目の学習に支障を来さない学力を身につけることを目的にした科目である。具体的には，総合理工学科2年生の必履修科目の各系専門科目の中から基礎となる科目に重点を置いて講義と演習を行う。						
授業の進め方・方法	授業の方法：長期休業期間などを利用して，集中講義で行う。課題レポート・演習を中心に，必要に応じて講義を行う。 成績評価方法：課題（50%）および理解度を確保するためのレポート（50%）で評価する。最終成績は，合格，不合格をもって表す。						
注意点	履修上の注意：機械，電気電子，電子制御，情報工学科から総合理工学科第3年次転学科学生を受講対象とする。長期休業期間などを利用して，集中講義で行う。 履修のアドバイス：CAD入門は，総合理工学科の基礎科目で，転学科後の学習の基礎固めとなる教科である。これら教科の理解は転学科して学習を行うためには必修である。事前に行う準備学習も必要である。 基礎科目：総合理工基礎（1年），機械設計製図Ⅰ（2） 関連科目：機械設計製図Ⅱ（3年），全系横断演習Ⅰ（3），全系横断演習Ⅱ（4）,機械システム（5） 受講上のアドバイス：予習・復習が大切である。また，分からないことがあれば質問すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
選択							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	<今年度は開講しない>				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	2	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	2	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	2	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	50	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	50	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0